令和8年度 愛宕小学校学力向上プラン　～チーム愛宕（全職員で）一人も取り残さず子供を伸ばす～

【教育目標】あたたかく たくましい心と体をもち 互いに学び合う児童の育成 ～よく学びいつも元気でやさしさいっぱい～

【合言葉】「よく学びいつも元気でやさしさいっぱい」よいや！

【めざす児童像】〇あたたかい心をもつ優しい子 〇たくましく生きる元気な子 〇互いに学び合う賢い子

【めざす職員像】〇子供と共に学び、共に汗を流す教職員（本校の強み） 〇人間性が豊かで信頼される教職員（誠実） 〇常に課題意識をもち、学び続ける教職員（研修）〇心身ともに健康で協力し合う教職員（働き方改革）

【めざす学校像】〇子供が行きたい楽しい学校 〇保護者が安心して通わせたい学校 〇地域が応援したい自慢したい学校 〇職員の意欲があふれる働きがいのある学校

【学力調査の結果】

※3･4年生は市の平均、5･6年生は県の平均と比較し、5ﾎﾟｲﾝﾄ 以上の差について、有意差(高い･低い)があると判断

3 年		4 年		5 年		6 年	
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
高い	平均	高い	高い	平均	やや低い	やや低い	平均

【確かな学力におけるめざす児童の姿】
「分かりたい」「できるようになりたい」という思いをもち、積極的に聞いたり自分の考えを伝えたりし、すすんで学びに向かう児童

【本校児童の課題】
〇学力調査において、記述の問題に対して主体的な取り組みはあるものの、学年が上がるにつれて正答率が下がっている。
〇「聴き合い」から自分の考えを広めたり、深めたりすることができるものの、相手意識をもち、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」には課題がある。
・情報と情報の関係を理解したり、結び付けて考えたりすることが苦手。
・家庭学習の取組に個人差があり、個別に支援を要する児童が多い。

【子供の伸ばすための視点】※数値化（赤）

視 点	具 体 的 な 取 組	視 点	具 体 的 な 取 組
1 授業改善	一人も取り残さず、すべての児童が学習の主体者となる授業改善を目指す校内研修 主題：「児童一人ひとりが学習の主体者になる授業改善を目指して～問題解決学習における聴き合いを通して～」 【視点1】協同を必要とする問題についての研究（愛合課題） 【視点2】問題解決学習における学び合いの効果的な位置づけと形態の選択（聴き合い） 【視点3】学んだことを自分の中に再構築するための「振返り」の研究 研究の柱：①「聴き合う関係」づくり ②「愛合課題」の設定の工夫 ③振返りの充実 〇全体授業・部会授業における全員授業 〇ICT を活用する授業 〇わかる喜びが実感できる授業（R7児童による学校評価94%）	4 基礎基本の徹底	〇読書の充実を図る→図書室の活用、学校司書との連携 →年間低学年120冊、中学年100冊、高学年80冊を目標とする。 〇デジタマ・キュビナの活用（週3回以上） 〇愛（I）チャレンジ、校長問題の実施（週1回以上）
		5 特別支援教育の視点	〇交流学級担任と特別支援学級担任との連携の強化（1日1回児童の情報交換） 〇幼稚園・保育園・中学校との連携、スクールカウンセラーなどの関係機関との連携の強化 〇個別の支援計画と指導計画の作成 〇コグトレの実施（週1回以上）
2 学習習規律の徹底	〇学習規律における掲示物（ハンドサインによる発表の仕方・反応のあいうえお・振返り（わがとも） 〇学習用具のチェック表（学期ごとのチェックで３月までに95%そろうようにする。） 〇愛宕スタンダード（学習規律）の徹底（学び方の基礎・基本） （児童・教師共に毎学期3回アンケートを実施し、意識の向上を図る）	6 地域・家庭との連携	〇保護者との情報共有の充実 〇家庭と連携した「生活リズムチェックシート」の取組（各学期1回） 〇家庭学習の手引き作成・配布（R7保護者による学校評価81%） 〇家庭、地域と連携→大人総がかりでの児童の健全育成（パワーアップ教室・にこにこ教室）
3 学級経営	〇日常的な「いのちの教育」、実践の積み重ねによる互いに認め合うことができる「支持的風土がある学級づくり」（道徳科の充実と道徳的実践力の育成） 〇児童に自尊感情・自己肯定感や達成感を味わわせる取組と称賛 〇心の天気アンケート実施。必要な児童に対しての個人面談（月1回）	7 生活指導	〇5つのあ 「あいさつ・あそび・あるきかた・ありがとう・あとかたづけ」の指導の継続・徹底 （毎月の生活の目標設定） 〇あはは運動の浸透

※各学年の学力向上における課題、取組は別紙